

血液のがんと外来化学療法室

血液内科主任部長 宮武淳一 医師

生涯で日本人の2人に1人はがんを発症すると言われていますが、近年の化学療法の進歩により血液のがんは決して怖い病気ではありません。当院では患者様が今までの生活スタイルを維持したまま、抗がん剤治療を受けることのできる外来化学療法室を設置しています。今回は化学療法の効果が望める血液のがんと、外来化学療法室について宮武医師に聞きました。



医学博士 日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会指導医 日本血液学会認定血液専門医 日本血液学会認定血液指導医 日本がん治療認定機構認定医 日本移植学会認定医 日本造血細胞移植学会認定医 日本輸血・細胞治療学会細胞治療認定管理師 日本医師会認定産業医 厚労省難病指定医 日本血液学会近畿血液学会地方会評議員

血液のがんとは

血液を造る工場である骨髄内の細胞が様々な段階でがん化する病気で、白血病、多発性骨髄腫、悪性リンパ腫などがあります。これらの病気に対し抗がん剤療法と分子標的療法(がん細胞に発現している特定の分子を狙い撃ちする治療)を行います。症状に応じて入院治療が必要な疾患と通院しながら治療を受けられる疾患があります。急性白血病は基本的に入院治療が必要ですが、慢性白血病は分子標的薬の服用のみで日常生活を送ることが可能になってきました。また、多発性骨髄腫に対しては様々な治療薬が開発され、患者様の生活スタイルに合わせたオーダーメイドの治療方法が選択可能です。さらに、悪性リンパ腫も化学療法の進歩により外来通院で治療が可能になり、病期が進んだ患者様の病状を回復することも可能な時代になってきました。血液のがんに対する分子標的

療法はすべてのがんの中で最も進歩が早い分野です。

血液がんの 外来化学療法

白血球中のリンパ球ががん化することにより発症する悪性リンパ腫の治療を例にとつて説明しましょう。初回治療は治療薬の副作用チェックのため入院になり、初日に分子標的療法、2日目に抗がん剤療法を行います。血球減少、肝障害、腎障害等の副作用がなければ3週間程度で退院し、2コース目からは外来化学療法室へ2日間通院して同様の治療を受けて頂きます。治療開始から約2週間経過する頃に外来受診をして頂き前述の副作用がないか診察させて頂きます。もちろん外来予約日までには何か変わった事があればいつでも対応致します。治療は合計6コース施行し、2コース目終了後と全6コース終了後に当院のPET-CT検査で治療前の状態と比較することにより治療効果を判定します。最終的に悪性リンパ腫

の細胞が確認されなければ今後は経過観察になります。

外来化学療法室

当院は大阪南河内地域で数少ない血液内科専門施設であり、近隣地域の医療機関からのニーズも高く、特に高齢の方の血液がんの治療に力を入れています。専任医師は私も含め、全員が臨床経験豊富な日本血液学会認定専門医であり、患者様一人ひとりに応じたきめ細やかな最新の治療法を行っています。外来化学療法室は日常の生活を送りながら根治的な治療を目指し、患者様の生活に合わせたオーダーメイドな治療を提供しています。血液のがんはひと昔前の「不治の病」ではありません。希望を持って治療を受けて頂きたいと思えます。



外来化学療法室内